

## 執筆者一覧（掲載順）

- 太 田 原 潤 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 博士後期課程
- 吉 川 良 和 非文字資料研究センター研究協力者
- 彭 毛 夏 措 日本福祉大学福祉社会開発研究科社会福祉学専攻 博士課程
- 加 羊 東京外国語大学総合国際学研究科世界言語社会専攻 博士課程
- 廣 瀬 由 子 筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院人文社会科学研究群  
人文学学位プログラム歴史・人類学サブプログラム 博士前期課程
- 中 林 広 一 非文字資料研究センター研究員  
神奈川大学国際日本学部准教授

## ■編集後記

『非文字資料研究』第25号をお届けします。3本の論文、1本の展示の実施報告、そして1本の資料集成分と、ヴァリエーションに富んだ構成となりました。論文では、吉川良和氏による中国租界での演劇活動をまとめた大部の研究が目を引きまします。芸術という領域で論じられがちな演劇が、揺動する20世紀初頭の中国租界のダイナミズムにおいて総体的に論じられた意義は大きく、ジェンダーや国喪といった現代的なテーマとも関連していく論旨はスリリングなものとなります。また南部藩の絵暦やチベットにおける生態移民政策についての研究も、民衆史や環境保護といったアクチュアルな問題系に非文字資料研究が応答する好例となるでしょう。

また企画報告は新機軸であり、非文字資料研究が持つ「展示」という実践的な側面に光を当てるものと言えます。ニューズレターに掲載するには長文となるような、詳細な分析が必要な報告については、ぜひこの『非文字資料研究』の「報告」というカテゴリーをご利用ください。また中林広一氏における、日本における華僑の絵画表象を追った研究は、これからの資料分析の礎をなすもので、きわめて貴重な試みと言えます。非文字「資料」研究である以上、資料を収集し、整理された形で共有するのは私たちの務めで、後に続く研究が期待されます。また図版も多く掲載できるのが、この『非文字資料研究』の強みです。

学問研究の変革期にあって、このような多様性に富んだ研究成果を伝えられる媒体を持つことは重要です。『非文字資料研究』がそういった媒体であり続けるため、今後も堅実かつ独創性あふれた研究を、編集部では心待ちにしています。(熊谷謙介)

## ■表紙説明

今号の表紙に掲げた図版は歌川広重(三代)による「横浜海岸通之図」(非文字資料研究センター所蔵)から材を得た。横浜浮世絵の代表的な作品に位置づけられるものであるが、1870年(明治3)に版行された浮世絵であり、横浜が開港場として定められて間もない時期の運上所の様子が描かれている。

作品では海に向けて伸びる二筋の波止場が目につくが、左手の波止場には「異人波止場」、右手の波止場には「日本波止場」の注記が示されていることから分かるように、荷の搬出入やはしけ船への乗り降りを行う際には利用者の別が厳格に定められていた。目を凝らして眺めると、確かに異人波止場には欧米人や中国人と思しき人物が描かれる一方、日本波止場には日本人の役人や人夫の姿しか見ることができず、三代広重の筆致に細部に対するこだわりを見ることも可能かもしれない。こうした書き分けを意識しつつ改めて作品を振り返ると、一人一人の所作にリアルでありつつもユーモラスな印象を覚えるだけでなく、開港間もない横浜に満ち溢れていた熱気もまた感じ取るのは私だけであろうか。

ところで、左の波止場はその特徴的なカーブがひととき目を引く。これはいわゆる「象の鼻」であり、現在も横浜港にその面影を残した形で現存している(表紙裏参照)。実際の景観との突き合わせを通じて、非文字資料が持つ魅力もさらに増幅されて伝わってくることから、横浜に足をお運びの折にはぜひ今号もお供に加えてもらえれば幸いである。(中林広一)

非文字資料研究 第25号

The Study of Nonwritten Cultural Materials No. 25

---

発行日	2022年9月30日
編集・発行	神奈川県立歴史博物館 非文字資料研究センター 日本常民文化研究所 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 <a href="http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/">http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/</a>
印刷	株式会社 精興社
雑誌コード	ISSN 2432-5481